

友好の絆を深めて

中村哲之助議員の中国訪問記

府議会各会派の議員で構成する「大阪府議会中国友好訪問団＝末尾に訪問団一覧表」は10月24日～28日、上海市・江蘇省・南京市を訪問し、日中両国の友好交流に大きな成果を挙げました。

今回の訪中は、大阪府と上海市の友好交流25周年を記念した式典などが行われることから、これまで何度か実施してきた訪問とは大きく変わっています。特に今回は、府議会だけではなく、スポーツ・文化・経済・政治など府内の各種団体も参加し、盛大で華やかなイベントになりました。

今回の訪問は私が団長を務めましたが、大変なハードスケジュールで、私自身が十分に記録することができず、意を尽くした報告にはなっていませんが、旅日記風にまとめてみました。

(なお、この訪問記をデータで希望される方はご遠慮なくお知らせください)

関空から上海へ(10月24日・月)

この日、私たちが上海へ向けて搭乗するのは、午前10時30分に離陸するJL793便です。そのため、8時30分に集合し、その後、各種手続きをすることになっています。しかし、私は予定より20分も早く、8時10分に到着しました。9時過ぎに出国手続きを終え、出発までの間、空港内のラウンジ「さくら」で休息。私はここでゆっくりとコーヒーを1杯いただきました。

10時10分に搭乗手続きをし、機内に。私の座席は03・Cで、周りを見ると、ほぼ満席です。太田知事が最後に席に着き、もう離陸かなと思いましたが、なかなか離陸しません。やっと10時50分になって離陸。機体が浮いて、大きく傾きながら上昇すると、眼下に関空2期工事の広大な敷地が広がっています。とてつもない広さに思えます。しかしそれでも、海外の空港に比べると決して広くはありません。

日本と中国の時差は1時間で、私の時計はいま11時を指していますから、上海は10時です。早速、時計の針を戻し、10時にセット。

横の座席の品川議員と言葉を交わしながら、機内誌を読んだりしているとドリンクのサービス。どの団体かは分かりませんが、ビール・ビールという声もしていましたが、大半の人はコーヒー・ジュース・茶などのソフトドリンク。これがいきわたると、食事。和食を選択する人が結構いましたが、私はチーズが好きなので、洋食を選択。

最近では1年半以上、国際線には乗っていませんが、出てきた食器は「安全性」を考慮して、ナイ

フなどはプラスチック。最近の世相などがここでも分かります。平和で安全な社会でなければならないということが、食器でも考えさせられます。

12 時丁度に上海の浦東国際空港に到着し、ドアが開くと、そこには「大阪府知事様・大阪府議会様」と書かれたプラカードを持った方がおられます。私たちは通常の入国手続きなどを一切省略して、上海市人民代表大会（日本での議会。以下、人大）の案内でそのまま機外へ出て、12 時 05 分に迎えの車に乗ります。大阪府の関係者も何人かいましたが、太田知事は専用車で別。私も今回は訪中団の団長ということで、知事と同様に「専用車」です。他の方は大型バスに乗車し、12 時 15 分に出発。私と知事だけが特別扱いで、他の人に申し訳ない気持ちでしたが、これは賓客が来られたときのルールだと言われ、そんなものかと思い、従います。

専用車の後列右に私が座り、その横には、迎えに来ていただいた上海市人大常務委員会の胡・副主任、前の座席には上海対外貿易学院の王建明さんがおられ、この人が通訳。上海から最後の南京まで、表敬訪問・歓迎宴などで私が挨拶する際のすべてを王さんが通訳するとのこと。車中で簡単な挨拶をただけで、この王建明さんの日本語は実に流暢なことが分かります。そして会話の中で、聡明・朗らか・心配りのあることが随所に感じられ、素晴らしい女性だなと感心です。

25 周年記念レセプション

さて、私たち一行はパトカーの先導で、25 周年記念レセプション会場の「花園飯店」へ向かいます。6 年前もそうでしたがパトカーは大抵、対向車線を走り、停止することがありません。それ以上に驚いたのは、総ての交差点に警察官らが配置され、交差する道路には通行ストップがかかっていることです。「皆さん方は国賓並みの待遇ですよ！」と言われていましたが、規制の時間が 5 ～10 分とはいえ、大変なことをしていただいていると思います。

12 時 50 分に「花園飯店」に到着し、VIP ルームでほんの一時、休息。13 時丁度にレセプションルームに入場すると大きな拍手で迎えられました。すぐに太田知事が挨拶し、我々全員が紹介されました。会場には元知事・大阪府の教育界の重鎮をはじめ、経済・スポーツ・芸能などの分野の様々な方々が姿を見せていました。また、歌手の谷村新司さんのところには多くの方々が集まってサインを求めています。

会場内では日本の MBS テレビがカメラを持って何人かに取材をしています。



私自身もインタビューされ、答えに困ってしまいました。その中身が、「小泉総理の靖国神社参拝と中国人の反日感情」だったからです。私自身の「小泉総理の靖国参拝」に対する見解はありますが、「今回は訪中団の団長という立場であり、見解については述べられない。別の機会に個人としてならいくらでも述べる」と伝えると、個人で良いと

言います。いくら個人的見解でも、今回はできないと返事してもなかなか納得しません。会場内では誰にでもこんなことを聞いて廻っていたのでしょうか。私たち議員だけがこのようなテーマで、他の人たちには別のテーマだったのか判断できませんが、首相の靖国参拝がインタビューされること自体が残念でならないし、首脳は常に友好関係を損ねることのないようにしてほしいと願います。

(この時の様子が 10 月 31 日の夕刻、4 チャンネルで大きく取上げられることはその時点では誰一人知りません)

14 時丁度に司会者から、「それではお時間に限りがありますので、ここで、訪問団の団長であります中村・副議長に閉会のご挨拶をお願いいたします」と言われ、登壇。今回の訪中での最初の挨拶になります。私は「盛大なレセプションを開催していただいて、心から感謝している。25 年間の友好交流は文化・スポーツ・経済・農業をはじめ様々な分野で大きな成果を挙げている。府議会でも平和で豊かな国際社会が実現できるよう、両府市の友好交流の促進に力を入れてきた。25 周年を契機にさらに交流を充実・発展させよう」とお礼を述べました。



このあと、我々の宿泊する「新錦江大酒店＝JIN JIANG TOWER」に向かい、14 時 20 分に到着。なかなか立派なホテルです。私の部屋は 36 階の 3610 号室。荷物の整理などを終え、15 時にロビーに再集合し、上海市人民代表大会常務委員会へ。15 時 30 分に到着し、外事弁公室の伝・副主任らの出迎えを受け、人大の庁舎と都市計画館を視察。16 時 30 分から人大を表敬訪問

し、「龔 学平（きょう がくへい）」主任らに迎えられました。龔学平・主任の歓迎挨拶の後、私から答礼の挨拶をしました。



◇挨拶

- 大阪府議会副議長の中村哲之助でございます。訪問団を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。
- このたび、私たちは貴常務委員会からお招きを受け、大阪府議会を代表する友好訪問団として日中兩國の一層の友好を深めるために貴国を訪問させていただきました。
- 本日は龔学平・主任先生をはじめ、上海市人民代表大会常務委員会の皆様方にお目にかかることができ、大変喜ばしく、光栄に存じます。
- さて、大阪府と上海市が友好提携を結んで 25 年、この間、様々な分野で交流を展開し、大きな成果を挙げております。大阪府議会としても、中国総領事館や友好団体との親密な交流、超党派で構成する日中友好親善議員連盟の活動などを通じて、一層の友好親善のために努力しております。
- 本日は、この貴重な機会に上海市人大の皆様方と友好の絆を強くし、実りある訪問になることを願っております。
- それではここで、今回の訪問団の団員を私からご紹介させていただきます。
A議員 B議員 … 以上でございます。
- 最後に、皆様方のご好意に対しまして重ねて御礼を申し上げまして、私のご挨拶といたします。
挨拶は通訳が入るため、○印を付けたところで区切って挨拶しています。

挨拶はこのとおりですが、通訳が入ると、どうも間延びした感じで、こんなので良いのだろうかと思ってしまう。

この後、人大の議場を見学し、市政府関係者の座席位置や議長席・副議長席などを見、わが国の政治制度との違いがよく分かります。また、議席の椅子にはすべて名前が掘り込まれ、その人が退任する時の記念品になるとのことです。



正面が正副議長らの席
立派な椅子が人大で後ろの席は市長ら

その後、17時に退出し、世界で最もおいしい上海ガニを食べさせるという「王賓和大酒店」へ。包・副主任の歓迎挨拶の後、私が代表して挨拶をし、乾杯の発声。

歓迎宴は私自身も初めての美味しい「上海ガニ」をいただきました。実に 11 品もの料理が出てきましたが、ほとんどが上海ガニの料理。私達は後の行事予定があるため、アルコールもそこで、19時には終了して、19時10分に上海音楽庁に到着しました。

両府市の友好交流へ新たな一歩



太田知事とVIP室で



周副市長と握手

またまたここでもVIPルームに案内され、懇談。ここには太田知事や日中友好協会の熊谷会長、中国在大阪の邱・総領事、周・上海市副市長らがおられ、和やかに歓談。19時30分から記念式典が始まり、大阪府を代表した太田知事と上海市を代表した周・副市長はともに、「25年間の交流は大きな成果を挙げてきた。これからも益々交流を深め、一層絆を深めよう」と挨拶しました。この後、大阪のセンチュリー交響楽団と上海交響楽団の協同で、飛天繚乱、壮士行、ベートーベンの交響曲・第7番などを披露。満場の拍手を浴びました。



式典終了後、太田知事と並ぶ中村副議長。

中村副議長から左へ2人目が谷村新司さん。

アンコールに応じて、21時10分に「昴＝すばる」が演じられた時、場内が一斉に私の近くに着席の谷村新司さんに注目。戸惑うような仕草の谷村さんに、私は「谷村さんの出番ですよ」と声をかけると、「イヤ、それは困ります」と谷村さん。それでも、「そんなこと言わずに、舞台へ上がってあげてください」と、私に続いて知事も声を掛け、私が谷村さんの肘をつかんで「どうぞどうぞ」と言うと、とうとう谷村さんが舞台へ上り、大きく盛り上がりました。満場の拍手の中、21時30分に式典が終了し、私たちはホテルへ向かいました。

ホテルへ着いて「いの一番」に入浴し、トランクを開けて荷物を出したりしていると、もう11時。日本との時差が1時間ありますから、日本では12時です。本当に長い一日で、何か疲れた…という感じです。ただ、土曜日に近所のA医院へ行き、喉の奥がおかしく、このままだったら発熱、咳・痰の心配があるのでと、点滴をし、薬も飲んでいるため、心配していた事態にはどうやらならないようです。

ただ、S議員のトランクがホテルに届いていないということで、S議員は着替えもなく大弱り。事務局や旅行会社などが懸命に探していましたが、行方不明に。少し心配です。

変わり続ける上海 (10月25日・火)

この日のモーニングコールは7時でしたが、朝5時30分に目覚めました。カーテンを開けて外を見ると真っ暗。街灯なども日本に比べると少なく、36階から下を見ると車が少し走っているくらいで、上海の町はまだ静かに眠っているようです。まだ少し早いなと思って、もう一度ベッドに入るとまたぐっすり。今度、電話の音で目を覚ますとこれがモーニングコール。「ただいま7時1分です。……10分後にもう一度希望される方は、◇◇をプッシュしてください……」という声が聞こえます。丁寧なモーニングコールだなとその時は思いましたが、よく考えると、これはおかしいことです。このことが十分にわかった人は再コールの必要はありませんし、半分寝ぼけていればそのことができません。

先ほどと同じようにカーテンを開けると、もう外はすっかり明るく、街は昨日と同じように活気を取り戻しています。しかし、街の喧騒はここまで届きません。景色は写真のように少し霞がかかり、のどかな感じがしています。



私は早速、ミネラルウォーターでお湯を沸かし、緑茶を飲みながら、昨日のメモを基に日記・訪問記を整理。昨夜のアルコールがやっと抜けた感じになってきます。

ちょうど8時に41階の回転・展望レストランで朝食。食事は中・洋のバイキング方式で、私はナイフでゴータチーズを好みの大きさに切りお皿へ。肉類は一つもとらず、オムレツをコック

に作ってほしいと依頼。これから毎日、歓迎宴が続くため、朝はしっかりと野菜・フルーツを山盛りにし、ヨーグルトも。そして、パンや粥などは口にせず、コーンフレークに牛乳の朝食。

上海の都市計画に驚き

今日の出発は9時で、上海市人大常務委員会の予算工作委员会委員の邵氏が迎えに。私は前日と同様に専用車です。9時25分に龍陽路に到着し、石氏の案内でリニアモーターカーの仕組みなどを説明され、早速リニアに乗車へ。浦東国際空港まで約30kmあり、最高430km/hのスピードを出し、所要時間はわずか7分20秒です。4両編成で15分おきに走っていますが、結構、多くの方が乗車されています。この二駅間をタクシー利用すると約40分で90元が必要とのこと。

リニアがスタートしたなと思うと、もう100km / 200km / 300kmと信じられない時間で430km/hに達します。そのため、タクシーに乗って空港まで行く人は少ないとのこと。我々が乗った車両は4両目のVIP席で、貸し切りのような感じです。一般車両が50元/1人で空港利用者は20%

OFF です。しかし我々は100 元/1 人の負担になります。7 分 20 秒はアッという間で、9 時 52 分過ぎに静かに到着。次の列車で元へ戻りますが、新幹線のような揺れもほとんど無く快適です。



ほとんどゆれず快適なりニア
頭上の数字が 430 k mを示している

10 時 20 分に東方明珠塔（テレビ塔）に着きますが、またここでも驚きです。私達は全員が赤絨毯の上を歩き、音楽隊が演奏して迎えてくれます。そして曲は北国の春。267m の展望台に立つとさすがに高い一言。上海市歴史博物館と外灘（バンド）観光トンネルを視察した後、昼食会場の豫園へ。12 時 10 分に到着し昼食。（この日も緑波廊というところで中華料理です）昼食後、上海市の中でも指折りの名園の豫園を見学し 16 時 30 分にホテルへ。少し歩き疲れました。

ホッと一息ついて、ポットでお湯を沸かして緑茶を飲むとお昼のアルコールがすっかり抜けていきます。しかし、18 時からホテル内での夕食会でまたまた老酒の連続。いくら量は少ないといっても 53 度ものアルコールを 10 杯以上も飲むとふらふらです。邵さん以下、中国の人達は本当に酒豪で感心してしまいます。

夕食会は 19 時 15 分に終わり邵さん・さんらとともに外灘周辺の視察に出かけます。19 時 20 分にホテルを出発し 20 時出航の遊覧船に乗ります。やはりこの時間になると、さすがに風を冷たく感じます。川の両側には見事な電飾、そして行きかう船もライトアップし、多くの人達が乗船して楽しんでいます。



広告になんと日本企業の名前が多いことか・・・

20 時 45 分に帰港・下船し、ホテルへ。これでこの日のすべての行事が終わりです。私はホテルの部屋で緑茶を飲みながら日記を書いた後、約 2 時間、好きな小説を読むことができました。明日は少し早く、南京へ移動するため、早く寝ることにします。

上海で気付くこと

1 交通協力員

私は上海へ到着して、車で移動するたびに感じたのは「交差点などによくこれだけ警察官のような人達がいるな」ということです。このことを尋ねると「あれは警察官ではなく、交通協力員だ」とのこと。茶色の服を着て交通整理をし、時には「ピーッ」と笛を吹き、私達を先導しているパトカーなどを通行させています。この人達はリストラなどによって職を無くしたというのが大半で、中央政府・上海市などが雇用対策の一環としてこれまでであった所得の 60%~70% くらいの給料を出しています。そしてもう一つの目的はかつて（5~6 年前迄）は自転車の洪水だといわれる程だったのが、一気に車社会に移行しているために、市民の多くが交通ルール・マナーを身に付けておらず、その指導を兼ねているということです。私が 15 年程前に始めて上海へ来た時は、車などはほとんど見ませんでした。広い道路の端から端まで何万台という自転車が活躍していました。時々通る車も、クラクションをならしながらクネクネと自転車を避けてスローに走っていました。それが今はほとんどが自動車に移り、昔の面影は薄くなっています。

2 高層ビル

上海には実にたくさん的高層ビルがあります。18 階建て以上を高層ビルと中国では呼び、今 2,800 棟あるとのこと。これに加えて 3,000 棟がさらに計画されていましたが、高層ビルばかり建設することが良いのかこの見直しをしようと現在、様々な角度から検討されているようです。

3 イスのナンバー

上海市の音楽庁の指定された座席に着こうと席を探すと、分からないのです。それもそのはずで、日本なら大抵 1 から 2, 3 と順に番号を付けているのに中国では偶数と奇数に二分しているのです。真中に 1 があり左側へ 3, 5, 7 と移り、右側へ 2, 4, 6, 8 となります。



その会場の中央に「1」がありますから、席順でもその順になります。従って、今回の配席では、「1」に上海市のトップが、3 には上海市の次の人が、2 には太田知事、4 に私がという順です。これは他の会場でも同じ座席ナンバーが付けてあり、なるほど中国のルールはこうなっているのかと感心します。

上海から南京へ (10月26日・水)

今回の訪問で、前半の中心は上海市での25周年記念式典ですが、もう一つは江蘇省と南京市への訪問です。

この日は上海→南京への移動日で、朝6時にモーニングコール、6時30分に荷物を出し、7時30分には出発となっています。私は1時間くらい早く目が覚めたため、昨晚に続いて小説を読み、持ってきた文庫本をやっと一冊終えました。

この日の朝食は昨日と同じなので要領も分かり、最初に玉子2個でオムレツをとお願いし、パン・チーズ・ヨーグルト・野菜の朝食です。2日間とも、ハムやソーセージ、魚類、お粥、シューマイ・・・と様々なメニューが用意されていましたが、何一つ口に入れなかったもので、味がどうなのかは全く分かりません。ただ、コーヒーの味は日本のホテルで飲むより少し濃い目ではないかと思えます。

◆中国の広大な光景に目を見張る

7時30分にホテルを出発し、南京へ向かいますが、今日はパトカーの先導がありません。私自身も専用車ではなく、他の方々と同じバスです。南京までは4～5時間くらいはかかるだろうと言われ、相当な移動になるなと感じます。

始めはかなり車も多く込み合っていましたが、20～30分もすると一気に車が減り、周囲の景色も変わってきます。ものすごいビル・住宅棟の建設ラッシュが、急に田園風景に一変です。最近の住宅の値段は日本円にして1㎡当り7万円くらいで、「新築マンションの一室で最低2,000万円くらいはします」という話が、最近では農家の後継者が少なくなってきた困っているという説明に変わります。また、長江が近くにあることから湖沼や池が点在し、そこでは上海蟹や海老が大量に養殖されています。朽ち果てた古い農家も時々目に付きます。これらは都心へ出て行ってしまったなどによって放置されているとのこと。その一方で鉄筋コンクリートの新しい3F建ての建物も時々目にします。



3階建ての農家

これらは比較的裕福な農家で1Fは倉庫・作業場、2F・3Fはそれぞれ世帯主と後継者のフロアで「農家がお嫁さんをもらうためにはこのような住宅を用意しないと来てくれないのです」という説明は、第一次産業における後継者不足と所得格差などが、決して我が国だけのことではないと、つくづく思います。

8時50分に急にバスがストップして動きません。はるか前までズーッと車が止まったままです。中には外へ出て隣の車どうし笑って話し合っています。理由が不明のまま、15分余りすると少し動き出しました。事故でもないし、規制でもないし、何が何だか分かりません。数分するとまた元のようなス

ピードで走り出し、途中のサービスエリアで9時25分から10分間のトイレ休憩。トイレ休憩に立ち寄ったサービスエリアの様子は日本とほとんど変わりありませんが、ただ日本なら30分～40分走るとトイレがありますが、中国は1時間以上も距離があり、また日本のような立派なレストランはありません。売店で、カップラーメンに大きなヤカンで熱湯を注いでもらう人が何人もいるのに目が向きます。



養殖事業が盛んに行われている

養殖や野菜の栽培が目立っていたのが、10時30分頃になると少し車窓の景色が変わってきます。それは稲刈り風景が中心になってくるのです。中国の水田はどうなっているのかと思っていたのですが、やっと稲の黄色くなった景色が見えて何か落ち着きます。またこれに加えて、茶畑や、ぶどう、みかん、栗などの木が数多く見られるようになります。

私達はすでに江蘇省に入っているのですが、江蘇省は10万平方kmを超え実に大阪府の54倍もの広さがあり、人口も7,400万人。南京・蘇州・無錫など58県と県級市で構成され、東は黄海に面し、西南と北部は山で囲まれ、東南は上海市に接しています。経済成長率は過去5年間、10～11%台と2桁の成長率を維持していて、中国全体の成長率よりも高いと説明を聞いている内に、南京市へ入ります。丁度今、12時35分です。

南京市にも多くの高層ビルが建ち並んでいますが上海市ほどの超高層ビルはなく、大阪の街並みのように落ち着いています。13時に私達は宿泊先であるシャングリラホテルへ到着し昼食。

その後、江蘇省人大への表敬訪問まで少し時間があり、ホテルの部屋で荷物を整理。私の部屋は6階で0626号室です。

◆江蘇省を訪問

14時40分に江蘇省人大から迎えの方が見えたとの知らせでお会いすると、外事委員会弁公室の「漆 新華」主任。この女性は大阪で言えば府議会事務局長の立場になるということです。漆・主任と名刺交換して、またまた団長用の専用車に乗り、後部座席の漆さんと王 建明さんの通訳で挨拶を交わします。15時に人大に着き、「柏 蘇寧（はくそねい）」人大常務委員会副主任、顧 介康秘書長らの出迎えを受け挨拶。江蘇省と大阪府とのかかわりや愛知県との交流、古代からの都としての南京のあり様、さらに近年の経済状況などについて説明を受けました。

私は挨拶で「今回の訪問を快くお受けいただき感謝している。2年前にも西浦副議長を団長とする訪問団がお世話になった。私達は日中両国の一層の友好を深めるため貴国を訪問した。この貴重な機会に江蘇省人大の皆さんと友好の絆を強くし、実りある訪問になるよう願っている」と述べました。



この後、記念品の交換、記念撮影を行い、私達は漆・主任らの案内で南京城壁を視察しました。明朝初年に建造され、今なお30 km以上が残っています。

土台は花崗石や石灰岩を敷き、その上にレンガを積み上げ、隙間にはもち米汁、桐の木からとつ



名前を刻んだレンガ

た油などを混ぜて注ぎ込み、異常なほどの堅固さを示しています。遠い昔、なぜこのようなものが強力な接着剤になると知ったのでしょうか？

また、当時、粗悪なレンガを作らないよう、一つひとつのレンガに製造者の住所と氏名を入れさせたとのこと。もし、粗悪なものだと言われると、もう一度やり直しをさせ、それでもダメとなったら死刑だったようです。

◆高齢者の健康遊具

私達は南京城壁の上を歩いていると、写真のように多くの高齢者がブランコと鉄棒をミックスしたような遊具を使用しているのを見て、漆・主任や案内の人達に「これは何ですか」と聞くと、高齢者用の公園と健康遊具だとのこと。体のバランスをとったり、屈伸をしたり、高齢者の老化防止のため、南京市内の空き地に設置しているようです。



老人用公園と健康遊具

日本では住宅開発が進んだ頃、子供の遊ぶ広場・公園がないからと、ちびっこ広場・どろんこ広場などが造られたのと同じようなものです。日本では今、高齢者用といえばゲートボールやグランドゴルフなどのゲームをする広場が中心になっていますが、このようなものも大いに参考にしなければと思います。

また、この日、18時から江蘇省人大主催の歓迎宴がシャングリラホテル内のレストランで開かれました。

柏・副主任の挨拶と乾杯に続いて、私は「このような盛大な宴を催していただき感謝している。大阪府と江蘇省は1980年に友好交流事業に合意して以来、様々な交流事業を実施してきた。また、この間、府内の4市が貴省の都市と活発な友好交流事業を展開しており、結びつきは益々強くなっている。府議会としても大阪をあげて江蘇省人大との交流を深めたい。今日は食事を共にしながら意見交換し、皆さんとの友好の絆をさらに深めたい」と挨拶し、乾杯しました。



◆少数民族への対応でも苦労

柏・副主任の挨拶や同席された人大の皆さんとの懇談の中で、私達は、今日の中国がとっている政策とその苦労の一端を見た気がします。江蘇省は大阪府の54倍の面積がありながらも、中国全体から見ればただの1%(人口は6%)で、様々な民族が存在します。

江蘇省には現在、漢民族以外の少数民族が55あり、その人口は約20万人で、この少数民族への優遇措置(少数民族対策)を講じているとのこと。例えば、学校の入学試験でも、500点満点で400点以上なければダメという場合でも、380点でOKというように工夫しているようです。教育や雇用などの様々な分野にこれが及んでいることから、55部族の人達が漢民族と結婚し子どもができると、子どもはどちらに入っても良いのに、ほとんどが少数民族の側に籍を入れるとのこと。日本人から見れば、生まれがどうかによって、入試などで差がつくなどということは考えられないだけに、13億人を擁する中国の施政の苦労が分かります。

この日の歓迎宴も「53度」です。漆・主任など、江蘇省人大の方々の飲みっぷりは私たちの想像を絶しています。「中村団長さんとカンペイ」と言われるとゾッとします。訪問団でもそれなりの飲みっぷりですが、とても太刀打ちできません。20時10分に歓迎宴が終了すると、もうクタクタです。日本との時差が1時間あり、いま日本時間では21時過ぎですから、部屋に帰った頃にはもう日本シリーズは終わっているかなと言う人がいて、私も早速、部屋のテレビを点けてみようと思います。

部屋に入って、私は上着などを脱いで備え付けのガウンを着、お風呂に湯を張ろうと蛇口を捻ると、上海のホテル以上のものすごい量が一度に出てきます。あっという間にバスタブがいっぱいです。テレビを見る間もありません。

上海のホテルでは、深夜から朝方までお湯が出ず、「寝る前に風呂に入ろうと思っていたのに、えらい目に合った」と言う議員もいました。私自身も上海では朝方、シャワーをと思ったのに「水」でした。ですから、南京ではもっと早くに湯が出なくなるかもしれないと、私は風呂に熱いお湯を張ることだけは何よりも先にと考えていました。この日も結構、アルコールをいただいていますので、入浴はもう少し時間を開けようと、熱湯に近いくらいのお湯を張り、湯が冷めてきた頃が良いかななどと考えます。湯を沸かして緑茶を飲むとやはり落ち着きます。今日が中国訪問の折り返しの日だと思いながら外を見ると、ホテルが少し小高いところに建っているのと、私自身の部屋が低層でもあり、上海の夜景とはすっかり違います。

テレビでは、三位一体改革、日朝交渉、米軍基地移転問題等とともに、ロッテが4連勝で日本一になったと伝えています。私は、阪神が実戦から離れている期間などを考え、4勝1敗でロッテが勝つだろうと家を出る時、妻に言ったことがほぼそのとおりになりました。

古都・南京を知る（10月27日・木）

南京市での最初の朝は7時にモーニングコール、9時の出発です。しかし、この日は4時過ぎには目が覚めてしまいました。こんなに早く目が覚めたのは、頭上で大きな水の流れる音が原因のようです。トイレでしょうか。しばらくすると、また同じ音がし、続いてアスファルト舗装を掘削しているような「ガッ、ガッ・・・」というひどい音がします。もう一度寝ようとしても寝られません。換気口からも響きます。これはひどいなと思い、寝るのは諦めてポットで湯を沸かし、緑茶を飲みながら持参した小説を読み、3Fの朝食会場へ。上海のホテルとは少し小さいレストランでしたが、逆に食事はしやすかったと思います。ここでもオムレツを作ってもらい、野菜・フルーツ・ヨーグルトをしっかり摂り、ベーコンを一枚食します。

昨晚、歓迎宴で盛り上げていただいた漆・主任が食事をしておられ、どうやらここに泊まれた様子です。

◆中山陵・明孝陵などを視察

9時に漆さんと張宏さんの案内でバスは出発。20分程で中山陵に到着します。途中で下車しなければならない場所があったのですが、特別にバリケードを開け、特別にどうぞと奥まで乗せてもらいます。

ここは近代中国建国の父といわれる孫文先生を安置してあり、年中、観光に訪れる人が絶えないそうです。私は6年前にも訪れていますが、こんなに広かったかなと改めてその大きさに驚きます。周囲の公園などを含めて何と、「マカオ」が丸々ここに入るとのこと。スゴイの一言です。

約 300 段の階段を昇りますが、下から見ると階段ばかりが見え、逆に上から下を見ると 3 つの踊り場のみが見え、一つの階段も見えない構造になっています。

棺のある部屋に入ると、私達が退出するまで一般の客は全てシャットアウトされたことを知りました。ここまでお気遣いいただかなくても・・・と思うのですが本当に申し訳ありません。

この後、明孝陵へ向かいます。ここは明朝を樹立した皇帝らを合葬した墓ですが、参道の両側に配置された動物の石像と蒼然としたプラタナスの古木は見事です。動物は 2 対ずつ 12 種類（ラクダ、麒麟、象、獅子など）で 1 つの石像が約 6 t はあるとのこと。



こんな大きな石をここへ設置するのは大変だっただろうと思っていると、説明を聞き納得。幅 5 ～ 6 m、深さ 10 ～ 20 c m くらいの浅い水路のようにし、ここに水を注ぎ、極寒時に氷を張らせ、その上を利用したとのこと。今日のような土木技術や機械が何一つない中、凄いことをやっていたのだと改めて中国の歴史・文化を考えさせられます。

また、市街地から中山陵、明孝陵へ行く時、その道が大きく梅花山という山を迂回しています。これは三国志で有名な孫権の墓がここにあり、古代から南京の人達は孫権をこよなく愛してきたことから、その眠りを覚ましてはならないと考え遠回りする道路にしたようです。何か、呉・魏・蜀の三国志の世界を垣間見る感じです。

◆南京市人大を表敬訪問

私達はこれらを見学した後、11 時 15 分に南京市人代に到着。さっそく程 従武（ていじゅうむ）副主任、容 桂平・副秘書長、楊 栄良・外事委员会主任、慮 衛寧・弁公室主任らの迎えを受けました。

程・副主任は挨拶の中で「省都として、近年、南京市は大きく発展している。また、これまで中国の国民体育大会は 4 年に 1 度、上海市などの 3 都市で交代に実施されてきた。（A, B, C, A, B, C のように）それが 10 回目の今年、初めて 3 都市以外の南京市で開かれた。ぜひ立派な施設なのでご案内したい」と触れました。

続いて、私からのお礼・挨拶に続いて記念品交換に移り、その後、記念撮影。程・副主任は「いろいろとお話したいことが多くある。ぜひ昼食の場で皆さんからのお話も聞かせてほしい」と夫子廟の貴賓楼に場所を移し、また「カンペイ」です。

程・副主任は開口一番に「皆さんの日程を見せていただくと、毎日、昼も夜も歓迎宴が続いて大変でしょう。今日はお昼でもあるので、ホテルや料亭の料理ではなく、家庭料理に近い食事を用意しました」と挨拶。



歓迎宴で 程副主任が挨拶



歌や琴、踊りなどが和やかにしてくれます

私達は「それはありがとうございます。毎日毎日ご馳走ばかりで、少々食べすぎになっていました」と答え、さっそくいただきました。確かに今までの料理とは少し異なっていますが、その代わり、味がすごく濃いのです。唐辛子をふんだんに使い、塩分の量も想像以上で、口の中が火事のように全部は食べられません。中国の人たちはこんなに濃い味付けで毎日の食事をされているのだろうか、不思議です。

そして驚いたことに、テーブルに「半分孵化したゆで卵」が出てきました。どの議員もごく普通のゆで卵だと思っていたのが、ひよこになる前の孵化 10～12 日目の卵だと言われ、「ビックリ」。まず、団長さんからどうぞと言われ、「こうして食べるんですよ」と教えられたとおり、こわごわ食べると、それがまた「美味しい」のです。最初はストローで、次ぎにスプーンで茶碗蒸しを食べるようにいただきます。中にはひよこの形らしいものが見えます。これまで中国を訪問した時に、蛇・蛙などを食しましたが、何事も経験です。今回も変わったものをいただきました。

◆トラブルに直面する

いろいろと珍しい料理をいただき、有名な夫子廟を 40～50 分ほど視察し、この後、南京市の国体施設と緑の博覧会場を訪問する予定になっていましたが、ここでトラブルが発生。議員団とともに参加している府議会事務局長が私に、「団長、大変なことを旅行社が言ってきました。今朝方から上海と南京の間の高速道路が霧のために閉鎖されているようです。そして、このままでは明日も閉鎖はたぶん間違いなく行われるだろうとのこと。そうなれば、上海発の予定の飛行機では帰られなくなってしまいます」と言うのです。局長との話で、

- ① 今晚中に上海市へ移動する
- ② 翌朝の移動を列車などの別の移動手段で行う
- ③ 南京からの飛行機を手配する

のどれかしら選択の余地がないことが分ります。

しかし、どれを選択してもうまくいくかどうかは分かりません。今晚中に上海市へ向かうにしても、果たして今からホテルが押さえられるのか、南京からの飛行機に空席があるのかなど、不確定要素

があるからです。私は「必ず、金曜日中に大阪へ帰ることが第一だ。方法はどれでもよいから、バスに乗りした時、全議員に尋ね、一番多い方法をとるようにすれば良い」と伝えました。海外ではいつ、何が起こるかわかりません。この後、数時間ほどは事務局・旅行社ともに大忙しだったと思います。

14時40分、私達は国体が開催された会場に到着です。陸上競技場・プール・体育館・テニスコートなどの立派な施設が建ち並んでいます。メイン会場は座席だけで62,000人あり、8万人で満杯だと言います。



この中の芝は日本から運んだようです

この施設は全額を国（300億円）が負担し、後の維持管理は南京市で負担するようです。私はこれを見て、中国の公共施設・中でもスポーツ施設の整備の必要性は一定分りますが、日常どのように運営されるのか、施設利用計画はどう立てているのだろうか、他人事とはいえ心配してしまいます。

私達はその後、緑の博覧会場へ向かいますが、先ほどの日程変更の件が、南京からの飛行機に我々の人数分の座席が取れそうだとということで、それでOKとしました。15時40分から緑の博覧会場の中を、2台の電気自動車で駆け足の視察。閉幕した後ですから、萎れてしまった草花も数多くありましたが、まだまだ美しい姿を残していました。

◆江蘇省政治協商会議を訪ねる

私達はその後、南京市の北京西路にある江蘇省政治協商会議へ向かいます。江蘇省政治協商会議は、愛知万博の終了する少し前の9月21日、呉 冬華・副主席を団長とする訪問団が大阪府庁を訪ねられ、議長・副議長・議会事務局長らが懇談しました。

その際、呉・副主席が「南京へお越しになるのであれば、ぜひ政治協商会議にも来て頂きたい」と話され、私から「時間をできるだけ調整し、お伺いできるようにする」と答えていたものです。

17時10分に到着すると、呉・副主席自らお出迎えいただき、早速、挨拶・懇談。その後、政治協商会議の開かれる議場の案内をしていただき、メンバー約800人の内、157人の常務委員がここで議論すると説明を受けました。

常務委員にはいろいろな方がおられ、共産党以外の少数政党のメンバーや経済界の主要な役割を担う人もおられ、江蘇省の各界各層の意見を反映しているとのこと。ちなみに最初の主席が毛沢東氏で、次が周恩来氏だったと聞き驚きます。

そして、何よりも驚くのは、2階へ上がるとマージャン・ビリヤード・カラオケ・バー・フィットネスルームなどの部屋があることです。ここでは政治協商会議のメンバーがよく利用されて楽し

んでおられるようです。日本では考えられないことです。府庁2階の議員控室で私達がマージャンをし、酒を飲んだりしていれば一体どうなるのでしょうか。国情、価値観、文化、歴史、政治風土…など、大きな違いがあり、何でも自分自身の経験則やスケールで測っていては、物事を正しく見ることができないと教えられたようです。

さて、私達はその2階の一番奥の部屋へ。ここにはもうすっかり、「歓迎宴」の準備が整っていました。私達が着席すると、呉・副主席は「よく来てくださいました。中村副議長とは1ヶ月前にお会いし、もう古くからの友達のように思います。固い挨拶は先ほどの挨拶で十分なので、お酒を飲みながらゆっくりとやりましょう。今日の料理は全て私が選定しました」と述べられました。

そこで私も、「この歓迎宴が中国での9回目の挨拶だと思っていましたが、私からの挨拶は省略させていただいて、呉・副主席の選ばれたご馳走をゆっくりといただくことにします」と述べ、「カンペイ」です。この料理人は福岡で長く日本料理を研究されたということで、私達がいつも口にする味と変わらない感じです。また、呉・副主席以外にも先月ご一緒された方が2人おられ、日本の印象や農業政策などに花が咲きました。

さらに、呉・副主席らのお阪での食事は「がんこ寿司」だったことから、「大阪の食事はいかがでしたか」と尋ねると、「料亭やホテルの会席料理より気軽に良かったですね。今度はたこ焼き・焼きそばも食べてみたい」と、笑顔で語られました。

◆誕生パーティの好意に感謝

またこの日、もう一つ大きなプレゼントがありました。それは、訪問団のK議員の誕生日が10月27日、正にこの日だったことから、呉・副主席に誕生パーティもやっていただいたことです。ウェディングケーキほどもある大きなケーキを作っていただき、みんなで「Happy Birthday to Your……」と歌い、K議員が一気に蠟燭の火を消すというお馴染みの姿が登場し、大きく盛り上がりました。K議員は大感激し、一生の思い出になると喜んでいました。



そんな和やかな歓迎宴も20時20分に終了し、私達は政治協商会議を後にしました。これが最後の夜ということもあったとは思いますが、一番心に残る歓迎宴でした。

さて、お昼のトラブルの処理がようやくできたようです。それによると、当初は別表にあるように、朝7時にバスで南京→上海への移動でしたが、南京の禄口空港から明朝8時10分発のMU533便で関西国際空港へ向かうことに。従って、4時45分モーニングコール、5時には荷物をまとめ、5時20分までにチェックアウトしてロビーへ集合、5時30分には出発ということになりました。

私は朝方、「早朝の音が喧しく、部屋をできたら変えてほしい」と頼んでいましたが、こんなに

早く起きるのならかまわないと連絡し、自室へ。朝は時間がないので、今晚中に片付けようと荷物の整理にかかりますが、中々うまくいきません。「まあ、朝でいいや」と、緑茶を飲んで一休み。今日も「53 度」でヘトヘトです。何か、もうこれで挨拶などはしなくてもいいのかなと思うと、一度に疲れが出たように思います。

南京で気付くこと

1 信号機の表示

私が南京市で感心したのは、上海市に比べて実に交通ルールに対してマナーがいいことです。その原因の一つに、信号の表示方法があると思います。写真のように、どの交差点でも、後どのくらいの時間が経てば「青信号」に変わるのか、また逆に、後どの程度で赤信号に変わるのかが一目瞭然になっています。



わが国でも、このような表示を取り入れられないでしょうか。どの信号にもというつもりだとしても、事故が多発している交差点や主要な幹線道路に設置すれば、見切り発車や黄・赤で無理やり突っ込んでいく人も減るはずです。しかし、今の大阪ではムリでしょうか。

2 中国の国勢調査



私達が南京市を訪れ、漆・主任らの案内で南京城壁を見学した時、よく目立つポスターが1枚貼られていました。文字を読むと大体分かるのですが、「これは何のポスターですか」と尋ねると、中国は人口・面積など、わが国と比べて極端に多く・大きいため、人口の1%を対象にして詳細な調査を行うとのこと。また、調査の目的などが中々理解してもらえないこともあるため、このようなポスターを所々に貼ってあるとのこと。多民族・一人っ子政策……と、わが国では考えられない問題が多く、大変な苦勞があると聞かされました。

多くを学んで帰国 (10月28日・金)

不思議なもので、モーニングコールの時刻でもないのに目が覚めます。早速、パジャマや衣類などを整理してトランクを出します。窓の外は真っ暗で何も見えませんが、雨が降っているような気配です。5時10分過ぎにロビーへ行くともう半分くらいの議員が顔を揃えています。全員が自分の荷物を確認し、バスに乗車して出発。すぐに朝食のサンドイッチを食べますが、冷蔵されていたため冷たすぎて、味はさっぱりです。

早朝で道路はまったく混雑もしなかったため、私達は予定よりも随分と早く、空港に到着しました。それぞれが荷物を持って中へ入っていくと、江蘇省人大のご配慮で、私達はエコノミー席の乗客であるのに、VIPのようにラウンジへ案内していただき、ゆっくりとくつろぎました。

余りにも早い時間帯のため、売店もほとんど開いていません。暫くすると免税店などがオープンしましたが、ここは上海のような大きな空港と違って、そんなに種類が揃ってはいません。私は来る時、帰りの売店でAを、飛行機の中でBをと思っていたのが、今回の変更によってすっかりダメに。欲しい物は少々かさばっても、気付いたときに対処しておかなければいけないとつくづく思います。

ラウンジで、わざわざ新たに点ててくれた温かいコーヒーなどを飲んでいると、7時40分に電気自動車がラウンジの前に到着。これに乗って行きますよと言われ、搭乗口へ。結構な距離があります。そして8時ジャストに搭乗手続きが開始され、機内へ。8時10分に離陸するはずが中々離陸しません。ようやく8時30分に離陸し、一路、大阪へ向かいます。僅か2時間余りで着く距離ですが、そんな近いという感じはしません。北海道へ行くのと同じくらいの時間ですが、ものすごく離れた遠い国のように思えてなりません。外国だという気持ちがそうさせるのでしょうか。

私達が乗った飛行機は国内線よりもシートピッチなどは狭く、少し窮屈でしたが、機内で出されるコーヒーを飲み、機内食の焼きそばを食べると、「ああ久しぶりに、美味しいものを食べた」という気になります。来た時のように、時計を1時間進めていると、もう間もなく大阪です。かなり高度を下げているため、陸地がしっかりと確認できます。

10時20分に関空に到着。入国手続きなどを済ませて全員が揃ったところで解散。4泊5日の中国訪問はすべて終了です。

中国では、上海市人大・江蘇省人大・南京市人大・江蘇省政治協商会議の皆さんに、大変なご配慮をいただきました。大阪にお越しになっても、とてもあのような事はできないほどに歓待して下さったことに、改めてお礼を申し上げます。

私達訪問団は、短い期間ではありましたが、友好交流を深め、大きな成果を挙げることができたと確信しています。今回の訪問で、事務局にはいろいろとご苦勞をかけました。お世話になった皆さんに深く感謝し、レポートにします。

大阪府議会中国友好訪問代表団日程表

日付	都市名	発着地	時刻	行動予定	宿泊地
10/24 (月)	大阪	大阪 発	10:35	関西国際空港発 JL793便 (時差－1時間)	上 海
		上海 着	11:55	上海浦東空港着 花園飯店へ移動	
			13:00	大阪府・上海市友好提携25周年記念レセプション	
			14:00	ホテル着	
			15:30	ホテル発、上海人大庁舎へ移動	
			15:50	上海人大庁舎視察	
			16:30	上海都市計画館視察	
			17:30	王賓和大酒店着 上海人大表敬訪問	
			18:00	上海人大主催歓迎宴	
			19:00	上海音楽庁へ移動	
			19:30	大阪府・上海市友好提携25周年式典	
			22:00	ホテル着	
10/25 (火)	上海市	上海滞在	9:00	ホテル発	上 海
			9:30	龍陽路駅着	
			9:45	リニアモーターカー乗車	
			10:10	東方明珠塔、上海歴史博物館視察	
			11:30	緑波廊酒楼着 (昼食)	
			13:00	豫園視察	
			16:30	豫園発	
			17:00	ホテル着、休憩	
			18:00	夕食会 (ホテル内)	
			19:50	新天地視察	
			21:00	新天地発、ホテルへ移動	
10/26 (水)		上海 発	7:00	南京へ移動 (借上げバス)	南 京
		南京 着	12:00頃	ホテル着、昼食	
			15:00	江蘇省人大表敬訪問	
			16:00	南京城壁視察	
			18:00	江蘇省人大主催歓迎宴 (ホテル内)	
10/27 (木)	南京	南京滞在	9:00	ホテル発	
			9:15	孫文記念堂、明考陵視察	
			11:00	南京市人大表敬訪問	
			12:00	南京市人大主催昼食会 (夫子廟貴賓楼)	
			13:30	水上遊覧船で河西地域視察	
			17:00	江蘇省政治協商会議表敬訪問	
			18:00	江蘇省政治協商会議主催夕食会 (江蘇省政治協商会議庁舎内)	
10/28 (金)		南京 発	7:00	上海へ移動 (借上げバス)	
		上海 着	12:00頃	上海浦東空港着	
	上海	上海 発	13:40	上海浦東空港発 JL794便 (時差1時間)	
	大阪	大阪 着	16:45	関西国際空港着	

※行程については、現地状況により、変更の場合があります。

大阪府議会中国友好訪問代表团

団 員 名 簿

	氏 名	職 名
団 長	中村 哲之助 NAKAMURA Tetsunosuke	大阪府議会副議長 健康福祉常任委員会委員
団 員	岩見 星光 IWAMI Hoshimitsu	大阪府議会議員 総務常任委員会委員
団 員	横倉 廉幸 YOKOKURA Yasuyuki	大阪府議会議員 総務常任委員会委員
団 員	朝倉 秀実 ASAKURA Hidemi	大阪府議会議員 商工労働常任委員会委員
団 員	浦野 靖人 URANO Yasuto	大阪府議会議員 環境農林常任委員会副委員長
団 員	品川 公男 SHINAGAWA Kimio	大阪府議会議員 健康福祉常任委員会委員
団 員	野田 昌洋 NODA Masahiro	大阪府議会議員 総務常任委員会委員
団 員	竹本 寿雄 TAKEMOTO Hisao	大阪府議会議員 警察常任委員会副委員長
団 員	北之坊 皓司 KITANOBO Koji	大阪府議会議員 企業水道常任委員会委員
団 員	岸上 しずき KISHIGAMI Shizuki	大阪府議会議員 環境農林常任委員会委員
団 員	竹山 修身 TAKEYAMA Osami	大阪府議会事務局長
団 員	山本 憲央 YAMAMOTO Norio	大阪府議会事務局総務課主査

随 行：小澤 龍明（大阪府上海駐在員事務所所長）

上 山 英明（大阪府上海駐在員事務所次長）